

令和8年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	22	学校名	大垣南高等学校
------	----	-----	---------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	文武両道を実践し、進路目標の実現を目指す高校として 地域と連携・協働した自己効力感を高める探究的な学びを通して 母校愛や地域愛を育み、地域社会で活躍する人材の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	生徒一人ひとりの知・徳・体の調和のとれた人格形成を目指し、豊かな人間性と健全な心身を育み、自らの可能性を追求し地域社会に貢献できる生徒を育成する。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 確かな学力を身に付け、よりよく課題を解決する思考力・判断力・行動力を持ち、自立して主体的に行動することができる生徒 豊かな情操と規範意識を持ち、自己効力感が高く、他者を思いやり地域や社会に積極的に貢献しようとする心に富んだ生徒 健康維持や体力づくりに努め、自他の生命を尊重し、たくましく生きる力を身に付けた生徒 	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 課題発見力・課題解決力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進と、ICT等を活用したコミュニケーション能力と発信力の育成 生徒一人ひとりの個性や長所を伸ばすためのカリキュラムの編成と、個に応じた細やかな指導による自己効力感の伸長 勉強と部活動を両立させ、心身ともに健康で人を思いやる豊かな人間性の涵養 	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学を目指し、多様な学びに主体的に取り組み、自らの可能性に挑戦したいという意欲のある生徒 向上心を持ち、部活動や生徒会活動に積極的に参加し、他者と協働してよりよい学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣が身に付いておらず、家庭での学習時間の確保ができていない生徒が増加している。 学力が多層化しており、明確な進路目標を設定できない生徒が増加している。 規範意識やモラル、日常生活におけるさまざまな危険を認識できていない生徒が増加している。 学習と部活動や課外活動等を両立できない生徒が増加している。 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	授業改善やICTの活用等を通して、深い学びができる授業の実現に努め、生徒が自ら学ぶ姿勢の育成、定着を図る。	
	生徒指導	生徒の規範意識を育成し、社会の一員としての責任や義務を自覚させ、学校生活全般を通して豊かな人間性の形成を図る。	
	進路指導	低年次より基礎力の養成を図るとともに、生徒が自分の将来の進路について主体的に考え、明確な目標を設定し、その達成に向けて取り組めるよう支援する。	
	特別活動	学習と部活動の両立を目指しつつ、さらに外部との連携や資源の活用等による課外活動の充実を通して、豊かな人間性を涵養する。	
教育職員の業務量管理・健康確保措置の実施	適切な業務量管理と役割分担を平準化を心掛け、健康で働きやすい職場づくりを推進する。		

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A.B.C.D	成果と課題	総合 評価 A.B.C.D
学習指導	家庭学習の充実を図り、自学自習の習慣を身に付けさせる。	施策Ⅱ-8	家庭学習調査、宿題等への取組状況で評価する。				
	主体的・対話的で深い学びが実現できるように授業改善を進める。	施策Ⅱ-8	授業中の生徒の様子や宿題への取組状況、生徒・保護者アンケート結果で評価する。				
	教職員の学び合いや協働を大切にし、校内研修の活性化を推進する。	施策Ⅳ-26	校内研修の実施状況、取組状況で評価する。				
	ICTの活用を推進する。	施策Ⅱ-9					
生徒指導	交通安全啓発活動を通して、生徒自身の交通マナーに対する意識を向上させる。	施策Ⅰ-1	諸企画を計画通り実施し、生徒の変容の様子で評価する。 生徒・保護者アンケート結果で評価する。				
	定期的な身なりやマナー指導の実施を通して、身だしなみの重要性を呼びかける。	施策Ⅰ-1					
	外部との連携により規範意識やモラルの向上を図り、地域に愛される学校を目指す。	施策Ⅳ-20					
	生徒に関する職員間での情報共有を密にして、個々の生徒の状況に応じて適切に支援する。	施策Ⅰ-3					
進路指導	個々の生徒の学力やニーズに応じた多様な補習や各種講座の充実を図り、進路実現に必要な力を身に付けさせる。	施策Ⅱ-8	模試結果、進路希望調査、補習や各種講座の受講状況や実施後のアンケート結果で評価する。 各行事への参加状況、実習簿の反省や行事後のアンケート結果、生徒・保護者アンケート結果で評価する。				
	ICTを積極的に活用して生徒一人ひとりの学力に合わせた学習支援を行い、低学年時から基礎力の定着と応用力の伸長を図る。	施策Ⅱ-8					
	自分の将来について考え、明確な進路目標を持って取り組めるように、探究活動やインターンシップを通してキャリア教育の充実を図る。	施策Ⅱ-13					
	進路講話や保護者進路研修会などを通して、適切な時期に情報提供を行い、生徒の学ぶ意欲や保護者の意識を高め、主体的な進路選択へと繋げる。	施策Ⅰ-7					
特別活動	個々の生徒の生活状況を把握し、適正な部活動の運営を図って学習と両立させる。	施策Ⅳ-25	生徒の部活動加入率や継続状況で評価する。				
	南高祭を中心とした生徒会活動を、生徒が主体となって活性化させる。	施策Ⅰ-1	行事等実施後のアンケート結果で評価する。				
	ボランティア活動への参加を促進し、地域社会への貢献をより多く経験させる。	施策Ⅰ-1	ボランティア活動や諸企画への参加状況、事後アンケート結果で評価する。				
	外部と連携した企画に積極的に参加して、多様な学びを体験させる。	施策Ⅰ-4					

来年度に向けての改善方策等	実施日：令和9年 月 日	学校関係者評価	実施日：令和9年 月 日